

Hondaは、経済性に優れ利便性の高い50ccの第1種原動機付自転車(以下原付1種)の市場に、さまざまな製品を開発し発売してまいりました。そして、時代の要請に応え、高い環境性能と力強く扱いやすさを兼ね備えた4ストロークエンジンの搭載についても積極的に取り組んできました。原付1種のスクーターでは、1999年7月に、量産二輪車として世界初のアイドリングストップ・システムを搭載した新型の4ストロークスクーター「ジョルノクレア・デラックス」を発売し、高い環境性能とファッショナブルなスタイリングなどが多くのお客様に支持されました。その後、お客様によりお求めやすいスクーターを提供し市場拡大を図るために、2002年7月に「トゥデイ」を発売しました。このトゥデイは、Hondaのグローバルリソースを活用し、日本で開発し、アジア諸国から部品を調達し中国で生産する方式を採用しました。現在も熟成を重ねながら、ロングセラー商品として多くのお客様に愛用いただいています。

このような魅力ある商品を開発し市場に積極的に投入してまいりましたが、原付1種の国内新車市場は、2003年の約54万台規模から年々減少傾向にあります。排出ガス規制の対応による製品価格の上昇や、経済不況などの環境要因も重なり、2013年では約239,000台の市場規模となっています。

原付1種クラスは、生活に役立ちながら楽しみを広げられるミニマムコンピューターです。特に、若い人たちにこのクラスの有用性や魅力を共感していただくことが、二輪市場の活性化に必要不可欠です。

Dunkの開発にあたっては、若者層を中心に、通学の環境やスクーターに求めるさまざまな要望を徹底的にリサーチしてまいりました。既存のスクーターにはない新しいスタイリングや力強く環境性能にも優れた新開発のエンジンを開発するなど、若い人たちを中心に幅広い方々に受け入れられるスクーターに仕上げることができました。

国内において、ボディーからエンジンまで新規に開発し発売する50ccスクーターは、2002年のトゥデイ以来12年ぶりとなります。

若々しさに満ちたDunkの魅力を、ひとりでも多くのお客様にお伝えしてまいりたいと思います。